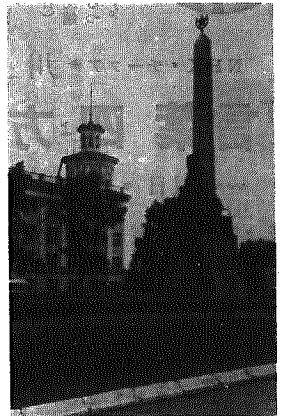


### 日本海新時代を担う、県青年の船

# 14人がハバロフスクへ



ハバロフスク市レーニン広場

いま、日本の若者の中で海外旅行は、異常なほどのブームとなっている。そのブームもあつてか、「第一回新潟県青年の船」に、本村の青年十四人（女性二人）が参加し、ソビエト連邦ハバロフスク市やイルクーツク市を訪問する。北文化博物館長伊藤文吉氏も同船の講師として同行する。

いままで、本村青年が海外へいったものは、ソ連へ二人沖繩（本土復帰前）に二人、韓国に一人であったが、今回のように、多勢の青年が海外へでかけるのは、はじめてのことである。

この「青年の船」は、新潟県連合青年団が日本海新時代を担う青年のレベルアップと若いリーダーを育成するために計画されたもの。

同船の参加人員は、三〇〇名で、三月二十九日ソ連船で新潟港を出発し、三十日ナホトカ港に到着、三十一日鉄道でハバロフスクに向う。

三十一日、ハバロフスク市でハバロフスク班とイルクーツク班に分かれ、両市内の主要施設等の視察をするほか、地元青年と交歓併修を行い、四月五日、帰国する予定である。

このころ、日本人は海外でさまざまな問題をひき起したり、エノミツツクアミルなど、ありがたかないトラブルが、この「青年の船」で、真の友好親善をはかって、国際人——日本人として、国際的理解を深めることを期待したいものである。

## 沢海中婦人会 文集『たんぼぼ』を学習に活用

沢海中婦人会では、婦人たちがもっと市の広いものを見方、考え方をしつと、文集『たんぼぼ』を発行して、婦人会の学習に利用している。文集は、昭和四十四年に第一集が発行されてから今年で第四集になる。

婦人たちは、農作業や育

から出てきた問題などを話しの糸にして学習活動をしていくが、その活動が地域に根ざしたもので、急速に変化する生活環境に対応できる婦人として、母親として、妻として、活動していこうと取りかかっている。



何といつても、家庭教育は親が自らの人生を大切にすることに力をつける、ひたすらに努力することから始まるのである。

親が、自分の生活を意識づけ、真剣に生きようとして、愛は、子どもにとっては、無言の教訓である。夫婦、親子関係の人間性の探求にあるようである。人間は、たしかに、

## 大切な親の生活態度

### 子どもにとって無言の教訓

集団生活をおこなう社会的動物である。子どもの社会性の発達と社会的活動のともになるものは、やはり、家族の集まる生活と母体として生きていくことである。つまり、家庭教育は、人間の健全な生活が中心であることを思考させることができる。

母性愛こそ家庭教育の権化である。人間が人間を知り、愛し、助けあい、信じあうために、人間の愛情が芽生え、それが、親の人格的感化の影の響の大きなことを意味している。家庭教育は、このために、感生の教育といえる。とくに母親の温い太陽のような愛情と微笑、雨露のような慈悲と厳正さは、育ちざかりの子どもにとって、大きな人間の感化を与えるものである。

母性愛こそ家庭教育の権化である。人間が人間を知り、愛し、助けあい、信じあうために、人間の愛情が芽生え、それが、親の人格的感化の影の響の大きなことを意味している。家庭教育は、このために、感生の教育といえる。とくに母親の温い太陽のような愛情と微笑、雨露のような慈悲と厳正さは、育ちざかりの子どもにとって、大きな人間の感化を与えるものである。

## 小千谷市 青年と交歓会

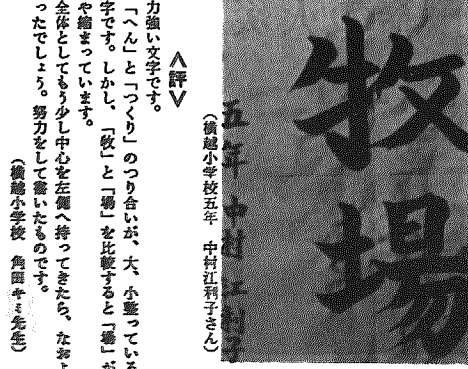
「あすの明るい地域づくりは、青年たちの手」と、県新生活運動協会の仲介により二月十七日、十八日小千谷市岩沢で、本村青年と小千谷市南部地区青年教室の青年と交歓研修会が行われた。本村から十九名が参加。地域振興と青年について熱心に話合いがされた。

「地域づくりの基礎は、まず、青年団活動を活発にすること。もっと問題意識に目を向け、そこから、青年たち自身で解決しなければならぬもの、行政、地域で解決しきれないものを見出し、学習活動や実践活動を積極的に行つてゆく」と強調された。

## 子どもサロン



（木津小学校一年 なんばしのぶ君）



（木津小学校 島田マサエ先生）

「あすの明るい地域づくりは、青年たちの手」と、県新生活運動協会の仲介により二月十七日、十八日小千谷市岩沢で、本村青年と小千谷市南部地区青年教室の青年と交歓研修会が行われた。本村から十九名が参加。地域振興と青年について熱心に話合いがされた。

「地域づくりの基礎は、まず、青年団活動を活発にすること。もっと問題意識に目を向け、そこから、青年たち自身で解決しなければならぬもの、行政、地域で解決しきれないものを見出し、学習活動や実践活動を積極的に行つてゆく」と強調された。

昭和四十六年九月からはじめられた横越局自動改式工事がこのほど完了し、村の電話が二月二十一日から全国即時ダイヤル式になった。

この自動式によつて、横越村の電話台数は、九六六台から、横越有線電話（二二五七台）を合せると、二二三三台になり、一戸あたり一・三台で、文字どおり電話村となった。

- 〇市外局番 〇25385
- 〇村電話局有線電話にかけるとき 2911
- 〇市外から有線電話にかけるとき 〇25389

ダイヤル式に切替になり、役場と公民館の電話番号が次のように変更したので何分よろしくお願いたします。

- 〇横越役場
- 〇二二二（代表）一四
- 〇横越村民館
- 〇二〇三三

また、ロビーに公衆電話（二二九三）を新設いたしました。

トップ写真の説明  
表題写真の「牧場（けいさ）谷の松」は、小形の真宗大谷派「松園寺」、開教後責任者が今から七百七、八十年前の元久元年創立と云われ、「八百年」と謳われている。舞臺上人が鐘楼廻りの折りにこの松に「けさ」をかけたとの伝えから「牧場かけの松」との伝説もある。最近、晴天後記念物指定の声もある。